



第30回 キララ賞贈呈式

日時：2021年1月30日（土）10：00～11：50

場所：オンライン（ZOOM ウェビナー）

主催：2020年度キララ賞実行委員会



目次

- p.1～ キララ賞贈呈式にようこそ！
運営委員長 紹介
- p.2～ 第30回キララ賞贈呈式プログラム
- p.3～ 2020年度受賞者のご紹介
- p.5～ 本日発表者のご紹介
- p.6～ 2019年度受賞者のご紹介
- p.7～ 1991年度～2019年度受賞者のご紹介

キララ賞贈呈式にようこそ！

1989年、生活クラブ生協はその活動が認められ、「もう一つのノーベル賞」といわれる、ライト・ライブリッド賞を受賞しました。この喜びを多くの人と分かち合いたいと、生活クラブ神奈川では、1991年にキララ賞 - かながわ若者生き生き大賞 - (Kanagawa Young Right Alternative Livelihood Award) を創設しました。キララはその頭文字をとったものです。以来、毎年若者たちのキラリと光る活動に対してキララ賞を贈り、励ましてきました。今年度30回目をむかえ、これまでに受賞した団体、個人は48件を数えます。(団体26件、個人22件)

生活クラブ神奈川と福祉クラブ生協の組合員は、毎年キララ賞実行委員会を形成し、運営・選考活動を重ねてきました。贈呈式では毎年、受賞団体、個人と交流を続けています。受賞者の活動は地域の人々とつながり、新たな運動へと発展し、神奈川の未来を切り開く活動につながってきています。

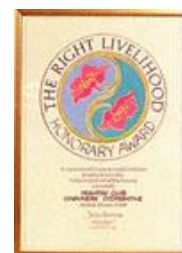
今年も神奈川の地で素晴らしい活動をする若者を見つけ出すことが出来、本日キララ賞贈呈式を開催いたします。

ライトライブリッド賞とは…

生活クラブ生協は、1989年に「ライトライブリッド賞・名誉賞」を受賞しました。この賞は、地球の負う傷を癒して、より安全な生活と人間性を高めるために貢献した、ビジョンと仕事に与えられる賞です。

ノーベル賞は、誰にもまねのできない優れた過去の業績が対象ですが、「ライトライブリッド賞」は、普通の人が少しの努力で実践できる実践に贈られます。そして「ライトライブリッド賞」の授賞式は、ノーベル賞授賞式の前日に、同じウェーデン国会議事堂で行われるため、「もう一つのノーベル賞」とも言われています。

生活クラブ生協は、主婦を中心とした組合員の組織運営、生活必需品(消費材)の共同購入、環境や資源再利用、共済・福祉、生活者政治の実現(NET)や働きづくり(ワーカーズ・コレクティブ)など、共同購入を軸として、暮らし全般に広がる運動が評価され受賞となりました。



運営委員長 吉村恭二 (よしむら きょうじ) 紹介

- ・NPO 青少年団体としては代表的な組織であるYMCAにおいて、学生時代からボランティアとして関わり、その後広島・熊本を経て、横浜YMCAの総主事を26年間務める。それが縁となり、キララ賞運営委員長となる。
- ・その間、横浜におけるボランティア活動の活性化を目指し、横浜ボランティア協会設立に設立委員長として関わり、理事長を長く務めた。また横浜市教育委員をつとめるなど、様々な分野で市民組織と公共、行政組織に深く関わりをもつ。
- ・(財)横浜市国際交流協会理事長。横浜YMCA名誉主事、(社)神奈川県青少年協会理事長、(財)神奈川県国際交流協会理事、神奈川県青少年問題協議会委員、横浜市勤労青少年センター運営委員長、横浜市生涯学習推進会議委員など歴任、数多くの公的責任を果たす。
- ・阪神・淡路大震災後には地域の諸団体・機関のネットワーク化を推し進め、横浜市災害ボランティアネットワーク会議、神奈川災害ボランティアネットワークの設立に取り組み、その代表も務めていた。現在、生き生き福祉基金理事長



第30回キララ賞贈呈式プログラム

<第1部> 贈呈式 10:00~10:55

- ★開会のことば
- ★和太鼓昇龍（2003年度受賞団体）お祝いの演奏
- ★キララ賞運営委員長のことば
- ★選考結果報告
- ★賞状・目録贈呈
- ★受賞者のことば

<第2部> キララ賞活動報告会 10:55~11:50

- ★キララ賞活動紹介
- ★キララ賞受賞者のその後（動画配信）
 - 2006年受賞 有機農園つむぎ（井上昌代さん）
 - 2011年受賞 石井利衣子さん
 - 2013年受賞 福本壘さん
 - 2016年受賞 加藤功甫さん
 - 2001年受賞 AYA

★昨年度受賞者より近況報告

「親切ダンスカンパニー」
「あすのち」 より

<交流会> 12:00~12:30 *キララ賞関係者のみで開催

- ★生活クラブ・福祉クラブ理事長祝辞
- ★質問交流
- ★キララ賞実行委員長 閉会の挨拶

- ★閉会

2020 年度受賞者 紹介

2020 年度は、神奈川の全地域からエントリー・応募がありました。その中から、キララ賞選考委員 25 名で書類選考、現地調査を重ね、厳正なる選考の結果、こちらの 2 組がキララ賞受賞となりました！

もりびと NOA

会の目的は、環境を再生し、地域の人間関係の深化と自給自足率の向上により食糧危機に地域単位で対応できるようにすること。これは SDGs2「飢餓撲滅、食糧安全保障」、3「健康・福祉」、8「包摂的で持続可能な経済成長、雇用」15「陸域生態系、森林管理、生物多様性」でそれぞれ挙げられている人類共通の目標を地域単位で達成していくということでもある。

今後、人類と自然が共存できる持続可能な社会を様々な世代の地域の人々と協力し作っていく中で私達が目指すのは、さらなる休耕地の再生と食料自給率の向上、自然との関係の深化です。「飢餓をゼロに」は国連や貧困国だけの問題ではなく日本にも訪れつつある食糧危機に地域資源を活かして対策していくことは細胞一つ一つが免疫を持ってウイルスに対抗するように有効な解決方法だと考える。

政府の指示を待たず、私たち地域が率先して人類の問題に正面から向き合い、対策し、その方法を広めることに、自分たちが育った町で子ども達と共に向き合いたい。

受賞理由

- ・若者が中心に二宮の自然環境を保全している。地域に根差した（若者の）活動を応援していきたい。
- ・参加者が自分のペースで自由に参加できる場であり、参加の中学生が事務局側となったりしていることから、活動は続いていくと思われる。
- ・大学生や高校生といった次の若い世代も含めて、将来性がある。



百崎 佑さん

こどものまちミニヨコハマシティの市長をつとめ、高校生のときにクラウドファンディングでドイツに行って記録ビデオを作成し、多くの人に高校生目線でこどものまちミニミュンヘンを伝えた。特命子ども地域アクターでは県にプレゼンし予算を獲得。U19 こどものまち全国サミットの高校生実行委員長として企画運営し、全国のこどものまち関係者 100 名以上が参加。高校卒業後にバリスタの勉強をし「横浜コーヒーフエスティバル」を企画、実行。映像編集が得意で、2020 年 1 月に都筑区役所の委託で R25 向けの事業を講師として実施。まちを楽しく、豊かにする活動をしていきたい。また、NPO のスタッフとして、後輩であるこどもたちが、将来を豊かに夢みることができるような手助けをしていきたい。

映像編集などのメディアでの情報発信が得意なので、とくにこどもたちが自分の言葉で、こどもたちの今がわかるような情報発信が自分でできるように伝えたり、お手伝いできたらと考えている。

受賞理由

- ・ SNS やインターネットを仲間づくりに活用している事で広がりを持っており、かつ会議・情報共有にも活用している事は時代に合っている。
- ・ 行政や社会とも繋がっており、行動力、組織力もある。
- ・ 代表者の熱意が強く伝わり、人を惹きつける魅力を持っている。



◆過去の受賞者紹介◆

2006年受賞 ◆井上昌代さん（有機農園つ・む・ぎ）

食料の国内自給こそがグローバリゼーション問題を解決するひとつの道と考え、有機農園「つ・む・ぎ」を始めた。野菜とともに届ける「つ・む・ぎ通信」で食や環境の問題などを訴えて消費者との交流を深め、新しい「農」のあり方を模索している。

2011年受賞 ◆石井利衣子さん

不登校・ひきこもりだった自身の経験を活かして、若者たちの支援活動に従事。実際に不登校・ひきこもりの当事者だった石井さんが、支援する側となり活動しているその姿は、今の若者の一歩先を行くモデルとなっている。

2013年受賞 ◆福本壘さん

若者が中心となり、地域での防災教育活動を行っている。自分目線で防災を考えるまち歩きや勉強会を開催する他、『防災トランプ』を開発する等、多様な世代が楽しく交流し、近隣の顔を見せ合う場をつくること、災害時に互いを助け合えるまちづくりを目指している。

2016年受賞 ◆加藤功甫さん

2016年4月にオープンした築65年以上の古民家「カサコ」（ラ・カサ・デ・ココの略）を拠点として、多世代多国籍の地域交流活動をしています。2011年4月～活動開始、メンバー7名で運営。子ども、地域住民、旅人（海外訪問者の総称）の3者を対象とし、1階部分で地域の方による日直制カフェや、放課後の子どもの受け入れを週5回程度、2階は海外からのホームステイの受け入れを実施しています。世代や属性間で繋がりが無かった地域活動ハブとして、異なる価値観・文化を受容し合い、人と人が出会うことが出来る場所を目指している。

2001年受賞 ◆AYA（AWC Youth Association） 文書発表

援助交際や少女買春など、子どもの人権に関わる問題の解決に取り組む若者たち。現在は組織を解消、母体団体のAWCの一員として活動している。

◆2019 年度受賞者紹介◆

親切ダンスカンパニー

月1回、我が道を突き進む自由なダンサーが、横須賀を中心にダンスや音楽など色んな表現活動を楽しんでいます。参加者は県内(主に横須賀市在住または勤務中)のダウン症・自閉症といった知的・発達に障がいのある人、高校生、大学生、社会人で構成されていますが、障がいのある人ない人・年齢・性別・国籍・ダンス経験は関係なし！メンバーを引き連れてステージ発表を一緒にしたり、学童保育・高齢者サロン・作業所といったコミュニティにおじゃまして皆でダンスしちゃいます。床さえあればどこでも踊れるのです。今後は、演劇・アフリカダンス・食レポなども加わる予定です。

ダンスの魅力は語り切れないほどありますが、なんといってもダンスでつながるコミュニティです。出会えた仲間・自分の健康な体・環境に日々感謝し、誰もがその場でステージに立つ素敵なダンサーとなれるよう、ファシリテーター兼ダンサーズとして活動していきます



あすのち

中学時代に塾に通えなかったことをきっかけに、地域の小学生・中学生・高校生に向けた学習支援と居場所づくりを行う団体「あすのち」を立ち上げました。主な活動は、生徒が学びたい課題をもってきてスタッフが完全マンツーマンで勉強を教える「夕暮れ学級」と、子どもがいきいきと過ごせる場を目指して、学び・考え・行動する機会と交流をつくっている「さつきプロジェクト」の開催です。座間市・横浜市に拠点をおいて各事業を毎月計4回ずつ開催しており、経済的な余裕がない・発達障害をもっている・高認を目指しているなど、さまざまな生徒が通っています。子ども自身が選んだ場所で学んでいける地域にあすのちもそのひとつとなれるよう、現在の活動の継続はもちろん、職業体験など将来の選択肢を広げる活動や、子ども自身が企画を立てる挑戦の機会づくりを予定しています。子どもに多様な方面からアプローチすることで、子ども自身が興味のあること、生きたい未来に向かって行動できる機会と経験をつくりたいと考えています。



1991 年度～2019 年度受賞者紹介

1991 年受賞 ◆十文字 修さん

横浜市の南部にある里山の保護に取り組み、1993 年に市民参加で運営する「舞岡自然公園」を開園させた「まいおか水と緑の会」の中心メンバー。

1991 年受賞 ◆橋本 純子さん

女性の自立と助け合いの場「みずら」のメンバー。女性が直面しているさまざまな問題の相談活動、アジアからの出稼ぎ女性の救出などを展開している。

1992 年受賞 ◆インドネシア・湘南若者交流事業（代表・和賀井 稔さん）

インドネシアの学生と湘南の中・高校生たちが、環境破壊や人口問題をしっかりと見据えていこうと、1992 年に発足させた。

1992 年受賞 ◆金子 寿さん

自らも重度の障害者でありながら、主体的に生きる活動を組織（Friendly LifeCommunity）、1987 年から中古の車いすを途上国へ贈る活動などを展開している。

1993 年受賞 ◆「小網代の森を守る会」若者グループ

三浦半島の先端近く京浜急行三崎口駅からほど近いところにある、約百ヘクタールの小さな森『小網代の森』の大規模保全を訴え続け、観察会・清掃活動・研究調査・トラスト支持などの活動を繰り返している。現在「こあじろの森くらぶ」として活動中。

1993 年受賞 ◆木曜パトロールの会

「野宿者たち」へのサポートを通じ、さまざまな困難を抱えている人たちを支援する活動を 1980 年代から続けている。現在は NPO 法人「さなぎ達」と、組織を拡大して活動している。

1994 年受賞 ◆加藤 直司さん（ファクトリースマイル）

単なる介助ではなく「楽しさを伝え、可能性を引き出す」という理念を持ち、障害者にスキーを教えている。

1995 年受賞 ◆小貫 大輔さん

ブラジル（サンパウロのスラム及びセアラ州の漁村）での保育・学童保育所支援とボランティア受け入れ。日本でのマルチカルチャー・キャンプ開催とブラジル人学校への支援。

1996 年受賞 ◆ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト

内戦などで肢体不自由になった人々の自立支援を目的に、ルワンダに義肢・装具の製作所を開設。障害者の中から義足制作技術者を育てるなどしている。

1997 年受賞 ◆フリースペース「たまりば」

さまざまな規制に順応できない子どもや大人達が、自由な時間と場所の中で好きに過ごしながら他人と協同することで、自分の生き方を取り戻していけるようにつくられたフリースペース。現在は、川崎市の青少年対策の一翼を担っている。

1998年受賞 ◆アベトンフォーラム

三浦半島の大楠山周辺で育った若者たちのグループ。自然観察会や動植物相の調査などを続けて自然保護を呼びかける。その後、は三浦半島の環境を守る会と合併、「三浦半島かんきょうフォーラム」に発展した。

1999年受賞 ◆尾山 篤史さん

自らも精神障害を持ちながら、同じ障害を持つ人を対象にしたフリースペース『たなからぼたもち』を主催する。

1999年受賞 ◆エスニック集団

神奈川県内に住む外国籍の若者たちが立ち上げた。自分たちの考えを日本の若者に知ってほしい、という気持ちで集まった。年一回、キャンプを通して交流しようと、社会人になってからも努力している。

2000年受賞 ◆多文化まちづくり工房

外国籍の人たちに日本語を教える若者たち。外国籍の人たちが多く住む県営「いちよう団地」。日本語のほかに進路指導、生活相談や多文化共生などに取り組んでいる。2010年度は国際交流基金「地球市民賞」に選ばれた。

2001年受賞 ◆ひよこっち

横浜市立ろう学校の教師をしていた代表の橋本一郎さんが、1997年に生徒たちと結成した手話パフォーマンス。

2001年受賞 ◆AYA (AWC Youth Association)

援助交際や少女買春など、子どもの人権に関わる問題の解決に取り組む若者たち。現在は組織を解消、母体団体のAWCの一員として活動している。

2002年受賞 ◆川崎 富川 高校生フォーラム“ハナ”

川崎市の友好都市である韓国の富川にある富川高校と、川崎にある複数の高校の生徒による交流活動。

2002年受賞 ◆認定NPO法人コロンブスアカデミー（六浦共同生活舎）

不登校や学習障害、引きこもりなどの問題を抱えた若者の緊急避難の場として、また地域の人たちの出会いの場となっている。現在はNPOコロンブスアカデミーとして活動している。

2003年受賞 ◆鈴木 健さん

ドメスティック・バイオレンス(DV)の被害を受けたフィリピン女性たちによる自助グループ『カラカサン』の支援者として活動をしている。鈴木さんは団体職員だが、その傍ら『カラカサン』の事務局として彼女たちの自主性を尊重しながら共に運動している。

2003年受賞 ◆和太鼓 昇龍

10～20代前半の若者たちが地元を中心にボランティアの演奏を行っています。太鼓を単なる楽器ではなく「人と人をつなぐもの」と考えるかれらの姿勢が、観客と一体感ある関係を生み出し、演奏から楽しさが伝わってきます。彼らに憧れて仲間に加わる後輩も多く、地域の中で若者や子供が育つ場となっている。

2004年受賞 ◆すたんどばいみー

外国籍の若者たちで構成するグループ。大和市立渋谷中学校のフリースペースを利用して「学習補講教室」や5ヵ国語による「母語教室」、高校受験のための補講や相談などを行っている。

2005年受賞 ◆帷子ウォッチンググループ

水辺の環境に親しみ、自然環境をはじめとする帷子川のさまざまな様子を調査・記録し続けているグループ。地域と連携をはかり、帷子川ボート探検隊として川辺町親水護岸で流域の環境観察などを行っている。

2006年受賞 ◆てのひら～人身売買に立ち向かう会

2004年に仲間と人身売買に関する勉強会を発足させ、現在イベント部・シェルター部・海外部・商品販売部の4部15人で活動している。中学・高校・大学祭などで絵本を使った、人身売買の現状を伝えるワークショップを開催し、この活動を全国に広げる活動をしている。

2007年 ◆該当者なし

2008年受賞 ◆NPO法人 Enjoyment

真のノーマライゼーションを目指している。子どもの一時預かり、送迎を主な事業としているが、障がいの有無をを問わず、全く同じ処遇をしている。また、地域の交流の場としてのコミュニティーカフェや英語教室も開いている。

2008年受賞 ◆Peace Peace Peace

核廃絶・平和な世界の実現を国連に届ける高校生平和大使の活動をきっかけに、神奈川県での平和活動などをすすめている高校生グループ。署名集めや地域の集会に参加してスピーチをするなど高校生が主体的に活動を行っている。全員が常に主体であり、対等でいたい、との思いからリーダーは決めずに活動をしている。

2009年受賞 ◆相原 海さん 佑子さん

2002年に農外から就農し、地域循環型の畜産に取り組んでいる。小規模循環型の養豚を継続中。現在、堆肥化システムの高度化を実行中。

2009年受賞 ◆宮ヶ迫ナンシー理沙さん

小学4年生の時、ブラジルから帰国した日系人。自らの体験から外国籍日系人である子どもたちが異文化の日本で苦勞している状況を何とかしたいと考え、さまざまな支援活動を展開。

2010年受賞 ◆STEP UP学習会

地域の子どもたちに安価で学習指導を提供している学生グループ。「学習塾に通う余裕が乏しくても子どもたちが学ぶ楽しさを味わえるように」と、友人たちと活動。地域の公共施設を会場に様々なメニューで学習会を開いている。

2010年受賞 ◆Musoke Olutindo～虹の橋～

養護学校の生徒・卒業生とアフリカ東部ウガンダの青年との交流を手掛ける。物資支援や現地でのワークショップを通じて、養護学校の卒業生たちが「自分が誰かの役に立っている」と思うことができ、彼らに生きる意味を与えている。

2011年受賞 ◆石井利衣子さん

不登校・ひきこもりだった自身の経験を活かして、若者たちの支援活動に従事。実際に不登校・ひきこもりの当事者だった石井さんが、支援する側となり活動しているその姿は、今の若者の一歩先を行くモデルとなっている。

2011年受賞 ◆高城芳之さん

地域と若者を繋ぐための活動を展開。地域のニーズと、社会人になっても地域の役に立ちたいという若手社会人・学生を繋ぐ新しい仕組み作りを進め、様々な活動を展開し、多くの人を巻き込んで活発に活動されています。

2012年受賞 ◆藤田靖正さん

障害を持つ方と一緒に ART を通じた新しい社会づくりをめざしている。オリジナルを楽しむ、個性を楽しむ、想像するところから生きる楽しみを生み出したい、そんな思いを持って活動している。

2012年受賞 ◆天白牧夫さん

里山保全活動を通じて生物多様性の保全に貢献する地域社会づくりを進めている。里山を保全することで、様々な生きものが棲める環境を作り、三浦半島の自然を再生させたいと思い活動している。

2013年受賞 ◆永岡鉄平さん

児童養護施設等の子ども達・若者たちに「就労教育・就職マッチング・仲間づくり」の機会を提供することで、彼・彼女達が貧困の連鎖を断ち切り、社会で本来持つ可能性を十分に輝かせ活躍してくれることを目指している。

2014年受賞 ◆佐野真吾さん

東京都市大学博士課程在学（受賞時）、ふるさと侍従川に親しむ会副代表。いきものがにぎやかに生きてゆける自然環境の保全を目指し、大学での研究、水生生物の保全活動、ふるさと侍従川に親しむ会などで活動中。また子どもたちへの環境教育にも取り組んでいる。

2014年受賞 ◆岡歩美さん

神奈川わかものシンクタンク代表理事。地域、親、子どもそれぞれの目線を大切にしながら、普段の生活に役立つ情報や技術の交換と交流がもてる教室を通して、参加者自身がいずれは講師になり親子やわかものが独自に助け合えるコミュニティを作りながら子どもが安心して育つことのできる環境づくりに取り組んでいる。

2015年受賞 ◆Beijo Me Liga (ベイジョメリーガ)

在日ブラジル人等の外国籍の子ども達との交流を目的とした団体を立ち上げる。主に東海大学湘南キャンパスの学生で構成されており、現在の活動人数は80名ほど。ボランティア活動や、「マルチカルチャー・キャンプ」という母国と異なる文化や言語に戸惑い、日本の生活に馴染めていない在日ブラジル人の子どもたちに「楽しい思い出」作りをするキャンプを主催。

2015年受賞 ◆川岸卓哉さん

川崎合同法律事務所、弁護士、地域の憲法カフェ等で講師を務めるなど市民・働く人の生活に寄り添った活動を進めている。福島第一原発事故ボランティアで数度足を運び、弁護士になってからは、福島原発事故被災者の集団訴訟に関わる。その後ドイツのエネギー視察を契機に、市民発信という点に力をいれ、地域の課題解決に取り組んでいる。

2016 年受賞 ◆小川杏子さん

2011 年東日本大震災をきっかけに福島の子どものための保養活動を始め、川崎市の様々な活動団体と連携し震災経験を風化させない活動を行っている。現在は大学院博士課程の研究者として、チェルノブイリ視察、トルコ民族問題の知見も深めつつ、この市民活動を継続することでお互いに触発しあい、大学院卒業後もメッセージを発信していきたい。

2017 年受賞 ◆学生団体 My Own Place さん

“成長に愛を”という活動理念のもとに子どもの居場所をつくる。遊び・学習支援、および食事の提供を通じた居場所づくり<MOP HOME>や中高生を対象とした学習支援<MOP TREE>を開催。単に食事を提供するだけでなく、大人や友人とは異なる大学生という独自の立ち位置（ナナメの関係性）から子どもたちに地域で安心して過ごせる居場所を提供している。

2017 年受賞 ◆割田大悟さん

双極性障害を発症し、“ひきこもり”等葛藤の中、“ひきこもり当事者グループ「ひき桜」in 横浜”を2設立。月1回、フリートークの交流を中心に居場所の提供。また当事者同士の「体系的に学ぶ学習会」を主催。当事者会「ひき町」のコーディネーターを務め、各地域に安心して過ごせる居場所ができるための取り組みを続けている。ひきこもりに関する理解促進やピアサポートの普及啓発を行っている。

2018 年受賞 ◆つばき学習会

学習支援を通して、子どもに最低限の学力を保障することと、子の面倒をみる親の負担を減らす。今後は児童養護施設入所者、生活困窮者、その他学校や家庭等では十分な教育が受けられない子ども達を対象に個別の学習支援を展開する。

2018 年受賞 ◆ひとりやないで！

精神疾患の子どもを持つ親向けの家族会ではなく“子供“に焦点を当てた家族会がなかったが、子どもの立場の方に限定した集まりを設けることで、この立場の疲弊・社会的孤立を防ぐ。

2019 年受賞 ◆親切ダンスカンパニー

ダンスの楽しさを地域の人々と共有することで、コミュニティづくりを促進。ダンスをしに気軽に人々が集まれる機会を作ることで、年齢・性別・国関・障害の有無を問わない多世代の交流、参加者（特に障害者や高齢者）の運動不足の解消と身体機能の向上、公共施設の活用、参加者の能力の発揮や新たな自己発見の効果を期待している。

2019 年受賞 ◆あすのち

多くのコミュニティがあるなかで、こども自身が選んだ場所で学んでいけるよう、現在の活動の継続はもちろん、職業体験など将来の選択肢を広げる活動や、こども自身が企画を立てる挑戦の機会づくりを予定。こどもに多様な方面からアプローチすることで、こども自身が興味のあること、生きたい未来に向かって行動できる機会と経験をつくる。

本日はキララ賞贈呈式にご参加いただき、ありがとうございました。キララ賞は2021年度も神奈川の若者の活動を応援すべく、エントリー募集活動を行っていきます。自薦・他薦、分野は問いません。ご自身の活動で自薦いただいても、みなさんの周りで活躍している若者を他薦していただいても構いません。今年度のエントリー・応募期間は未定ですが、追ってHP、ちらし等でお知らせいたします。たくさんの方のエントリーお待ちしております。

今後もキララ賞を、どうぞよろしくお願ひいたします。

【主催：2020年度 キララ賞実行委員会】

(実行委員長、生活クラブ神奈川ユニオン)			桜井薫
(横浜北生活クラブ)	山本千津子	眞壁尚子	森山典子
(横浜みなみ生活クラブ)	東海林麗華	村井久美	横井美奈子
(かわさき生活クラブ)	下妻理智	指宿久美子	吉田久枝
(湘南生活クラブ)	平賀容子	鷲原絵里子	市村直子
(さがみ生活クラブ)	遠藤亜紀	橋本恵理子	木村綾子
(福祉クラブ)	原静江	富田和子	内堀陽子
(事務局、生活クラブ神奈川・政策調整部)	椿山末雄		三上雅子

応募資格

- ・神奈川県内の若者（おおむね30歳まで）で個人または団体。
- ・財源の大部分が、公的助成や政治団体・宗教団体によってまかなわれているものは除きます。

キララ賞選考基準

平和・環境・福祉・文化・国際交流（分野は不問）などの分野で、未来を切り開き、身近な地域を大切に、新しい人のつながりをつくり出す活動をしている若者。

選考指針

選考指針として、次の7項目を重視して選考します。

- ◆未来への指向性を持っているか
- ◆オルタナティブな生き方の提案があるか
- ◆他の人たちが再現し実践できるか
- ◆広く世界の人びととつながる活動か
- ◆自分たちの身近な地域を大切にしているか
- ◆大ぜいの人びとの参加と連帯があるか
- ◆持続性のある活動か



キララ賞 HP : <https://kanagawa.seikatsuclub.coop/activity/kirara/index.html>

キララ賞 FB : <https://www.facebook.com/Kirarasyo>

